

1 「聖会説教の勉強会」の報告  
2 二〇一四年三月二四日(月)に、教  
3 団本部で、聖会説教をめぐる勉強会を  
4 いたしました(有志八名)。第一回目は、  
5 昨年の夏季聖会で、中西雅裕教団委員  
6 長が語られた説教を題材に学びました。  
7 聖会の二日目(七月一六日)の説教で  
8 す。教育局主事の鈴木英夫牧師が勉強  
9 会をリードし、まず説教音声の一部を  
10 聴きました。出席者の内のほとんどの  
11 者は、この夏季聖会に出席して、直接  
12 説教を聴いていましたが、改めて中西  
13 牧師の喜び溢れる励ましに満ちた声を  
14 通して語られるメッセージを、受け止  
15 め直す恵みの時となりました。  
16 まず、説教の一部を引用します。「モ  
17 ーセは破れ口に立ちました。同じよう  
18 に、神さまは私たち一人一人に、いろ  
19 いろなところにある破れ口に立つこと  
20 を期待しておられます。決して一人で  
21 はなく、主であるあなたと共に立つこ



22 とを期待してお  
られることを、  
私たちがもう一  
度知り…喜びを  
もってそこに立  
ち続け「られま  
すように」。その  
ような私たちに、  
このホーリネス

31 教団の教会、またホーリネス人となら  
32 しめてくださいますように。「私たち  
33 と神さまとの間の破れ口に立つてくだ  
34 った方がおられる。…十字架の上で、  
35 イエス・キリストが私たちの罪のため  
36 に十字架の上で死んでくださった。…  
37 ここからすべて始まっていくのです。  
38 このお方から神さまの恵みが流れて来  
39 るのです」。説教音声は教育局で購入で  
40 きます。  
41 説教を聴いた後に、この説教から何  
42 を受け取ったのか(第一印象)を分か  
43 ち合いました。次に、文章起こしされ  
44 た説教原稿を元に分析し、説教者が伝  
45 えようとした福音のメッセージを捉え  
46 直しました。分析の主な手法は、説教  
47 の流れを辿り、土台となる聖書の解釈  
48 は適切か、例話は効果的だったか、聴  
49 き手にどのように届いていたかという  
50 事柄を吟味します。同じ説教者仲間と  
51 してお互いへの信頼を土台に、忌憚な  
52 く語り合いました。  
53 この説教の急所となる部分は、主イ  
54 エスの十字架の赦しから全てが始まる  
55 というメッセージです。罪を贖う主イ  
56 エスが、私たちに先立って「破れ口」  
57 に立っていて下さっているのです。罪  
58 赦される恵みを受けた者として、主と  
59 共に「破れ口」に立つように、私たち  
60 は選ばれ任じられているのです。

61 説教にあらわれる罪の理解として、  
62 まず、旧約聖書から、出エジプト記三  
63 二章で、金の子牛を作るイスラエルの  
64 民の偶像礼拝と不信仰の罪が明らかに  
65 されます。神さまは民を愛するが故に、  
66 罪に対して驚くほど真剣に怒りを発せ  
67 られるお方です。一見、民を放棄した  
68 かのような表現もありますが、中西牧  
69 師は説教の中で、神さまがモーセを執  
70 り成し手として予め立てておられたと、  
71 神の深い救いの導きを語られます。  
72 また、そこでの福音理解として、「破  
73 れ口」に共に立つように私たちは招か  
74 れているのですが、「破れ口」に立つ煩  
75 わしさから、その招きを断るところに  
76 現れる罪があります。やっかい事は避  
77 けたいと思うのが普通ですが、世界が  
78 破れ、教会が痛み、人の心が病んでい  
79 るのに、そしてイエスさまが愛をもつ  
80 てそこにおられるのに、もし私たちが  
81 通り過ぎるならば、そこに自己中心の  
82 罪が明らかになるのです。「破れ口」に  
83 立つかどうかとは、実は「破れ口」を  
84 癒そうとする主イエスと共にいるかど  
85 うかなのです。この説教は、身をもつ  
86 て破れ口に立ち続ける、中西教団委員  
87 長が語られているところに、愛の荷を  
88 担うメッセージとして、説得力を伴っ  
89 ていることを実感しました。  
90 説教分析のプロセスを通して、私は

91 聴き手としての理解が浅かったことに  
92 気付かされ、語られている福音の豊か  
93 さに改めて気づかされました。また、  
94 説教者自身も、仲間の吟味を通して、  
95 多くの気づきを得る機会となりました。  
96 続いて、「ホーリネス説教」の特質と  
97 いう主題を巡って、それぞれの問題意  
98 識を語り合いました。ある方は、古い  
99 時代の聖会説教は、律法主義的な響き  
100 が強い傾向があったのではないかと、  
101 問題提起されました。別の方は、あか  
102 らさまな律法主義よりも、潜んだ律法  
103 主義の方が複雑で、福音を語りながら、  
104 人々を縛るような語りもあったのでは  
105 と、経験を語りました。  
106 「昔ながらのホーリネスの説教」に  
107 ついて、改めるべき部分があるならば、  
108 聖書を基準に修正をする必要があるで  
109 しょう。しかし、改革をする場合には  
110 霊的生命を失うことのないように、ホ  
111 ーリネスの聖会の霊的遺産を受け継ぐ  
112 取り組みが必要です。その為にも、神  
113 の臨在に溢れ、恩寵によって信仰の転  
114 機を生み出していく、聖書の福音を取  
115 り次ぐホーリネス説教を求めて、今年  
116 度も教育局では、聖会説教勉強会を、  
117 続けていくことになっています。次回  
118 の予定や問合せなどは、鈴木英夫主事  
119 (成田教会)までご連絡ください。  
120 (文責・鳩山のぞみ教会 宮崎誉)